

医 局 説 明 会

2018
6/30
(土)

千葉大学医学部附属病院
3階セミナー室 1・2
14時より(予定)

「目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来はさらに良い医療が提供できるように努力する」それが私たちの使命です。

そのために、患者さん一人一人の症例を多くの指導医とともに検討して深い知識と高い技術を得られるような指導体制を取っております。

出身大学による区別は一切ありません。

千葉大学出身でない方も数多く入局し、活躍しています。

結婚して、子育てをしながら働いている医師や音楽活動をしている医師などプライベートも充実しているスタッフの多い、楽しい職場です。



- ・ 数多く開催される勉強会や抄読会等で幅広い知識を得ることができます。
- ・ 看護師、臨床心理士等の多職種と協力・連携を取り、仲良く仕事をしております。
- ・ 病棟では季節のイベントやレクリエーションも実施いたします。
- ・ さらに詳しいパンフレットをご用意しておりますのでお気軽にお声かけ下さい。



教授 挨拶

教授・精神神経科科長
伊豫 雅臣



千葉大精神科を担当している伊豫と申します。この度は当医局に関心を持ってくださり、ありがとうございます。

現在は専門医研修の場が増え、皆さんが様々な基準で多くの選択肢の中から研修施設を選んでいく時代となっています。その中で「白い巨塔」や「性格の悪い教授」というイメージが喧伝されている大学医局の評価は高くないかも知れません。しかし、そのようなイメージが本当かどうか、まずは覗き見ていただきたいと思います。

次に大学病院では特別な病気しか診られないのではないかと、という疑問もあるようです。確かに当院には、他の医療機関で治療に難渋した患者さんも多くいらっしゃいます。しかし、絡まった糸をほぐすには多角的に見て丁寧に扱っていくことが必要であるのと同様に、実際の精神科臨床においても、様々な先輩医師の意見を聞きながら解決策を探して実行していく作業を続けることが肝要です。この作業過程を繰り返すことで、基本的な診療技術と先進的な学識経験との連続性を学ぶことを通じて、個人の知識と技量を大きく伸ばすことができます。当院でそのような基礎的な修練をこなすことは、次のステップである連携病院での研修によって自分を磨き上げるための大きな土台にもなります。

また、当院は総合病院ですので、他科とのリエゾン・コンサルテーション(LC)事例も多く、まさにそこは精神科プライマリーケアの現場であるといえます。当医局ではLCのトレーニングにも力を入れておりますので、プライマリーケアや他科連携のための技術についても幅広く修得することができます。

さらに、私たちの医局では、最近話題になっている抗精神病薬の単剤化や認知行動療法の実践を10年以上前から独自に行っており、現在は世界標準の治療を超えてさらに上のステージ、新たな診断及び治療技法の開発に向けて取り組んでいる段階です。私たちは、若い先生たちと自由で前向きな意見交換をしながら、新たな臨床課題に対するチャレンジを日々続けています。

ぜひ、「目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来さらによりよい医療が提供できるように努力する」仲間になって、楽しく実りある研修を行っていただきたいと思います。